

## 中学校第1学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時：平成28年9月29日（木）第2校時

指導者：教育センター所員 納塚 真紀子

題材名 循環型社会をつくるために私たちにできることは何だろう （内容D-(2)）

## 1 題材について

2001年に循環型社会形成推進基本法が、2012年に消費者教育推進法が制定された。2005年には国連ESDの10年がスタートするなど、持続可能な社会を構築していくことが急務となっている。しかし現実には、大量生産・大量消費・大量廃棄の問題が依然として解決できていない。便利さや安さを追い求めた消費生活が、資源の枯渇・廃棄物処理・環境汚染・児童労働など様々な危機的問題につながっている事に気付かずに生活を続けている。「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」には、「D身近な消費生活と環境」において、「社会において主体的に生きる消費者を育む視点から、消費の在り方や環境等に配慮した生活の仕方に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、持続可能な社会における生活に営みへの足掛かりとなる能力と態度を育てることをねらいとしている。」と記されている。

本学級の生徒は、衣服の購入は親に頼っている生徒が多い。小学校では、総合的な学習の時間や社会科でリサイクルやごみ問題などの環境についての学習は行っている。しかし、事前調査によると、文房具などを失くした場合、見付かるまで探す生徒は全体の20%と少なく、よく失くす物として消しゴムなどの文房具が多かった。また、時間を無駄にしている意識はあっても、物を無駄にしている意識は低かった。今欲しい物として、31名中8名が服や靴と答えた。1学期の衣服の選択の学習で、衣服の選択を失敗した場合、その衣服をどうしたかという問いに対し、タンスに入れたままと答えた生徒は23名（延べ人数）だった。

本題材では、まずファストファッションを取り上げる。ファストファッションの裏側では、予想も付かない社会問題が起きており、その驚きの事実を知ることによって、当たり前のように行っている消費生活に疑問を抱かせることができるようになる。自分の消費生活に課題意識をもたせるためには、消費者の本音を引き出したり、課題が解決されにくい背景にじっくり目を向けさせたりすることが重要である。対話的な学習の中で多様な考えをやり取りさせたり、多面的な視点から考えさせたりすることで、学びを深めていきたい。また、持続可能な社会の構築のためには、循環型社会づくりが不可欠であることを、消費者市民社会の視点を取り上げながら気付かせたい。

## 2 題材の目標

自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫して実践できる。

## 3 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する力	生活の 技能	生活や技術についての 知識・理解
ア 消費生活と環境の関わりについて関心を持ち、自分や家族の消費生活に問題意識をもっている。 イ 循環型社会の実現に向けて自分にできることを実践しようとしている。	ア 既習の学習事項を基に循環型社会の実現のための課題に気づき、その解決方法を実際の消費行動と関連付けて考えている。 イ 自分や家族の消費生活の課題の解決方法を工夫している。		ア 循環型社会について理解している。

## 4 題材計画（全4時間）

学習 課題	主な学習事項	時 配	教師の指導・支援	評価規準
習 得	1 自分の消費生活行為を再現する。 〔題材を貫く問いの設定〕 2 衣服の大量消費・大量廃棄（使い捨て）が世の中に与える影響について考える。 〔課題発見〕	1	1 身近な物を紛失した場合の対応を取り上げ、日頃の自分の消費生活を想起させる。 2 1学期に学習した衣服の選択の学習や実態調査と関連付けたり、生徒にもなじみのあるファストファッションを取り上げたりすることで、当事者意識を高める。 ファストファッションの裏側で起きている様々な社会問題を画像で提示することで、興味・関心を高める。	【関心・意欲・態度】ア (ワークシート)
	1 衣服を大量消費・大量廃棄（使い捨て）してしまう消費者の心理を考える。 2 循環型社会について理解する。	1	1 「安さ」「便利さ」だけでなく「宣伝効果・流行」にも目を向けさせながら、消費者の本音をできるだけ引き出す。 2 生徒から出された大量消費・大量廃棄に対する解決方法と関連付けながら循環型社会を取り上げる。	【知識・理解】ア (ワークシート)
活 用	1 循環型社会の実現に向けて、ファストファッションを取り上げた実践的な応用問題を用いて考える。 2 「物の一生」について考える。	1 本 時	1 リサイクルやリユースの問題点を捉えさせ、消費者の安易な考えに目を向けさせることで、循環型社会が実現されにくい現実気付かせる。 1、2時目の学習を基に実践的な応用問題に取り組みせ、思考力・判断力を育てる。 2 物を大切に使うことについて、断片ではなく、サイクルで考えさせる。	【工夫・創造】ア (行動観察、ワークシート)
探 究	1 消費者の責任について考える。 2 自分の消費生活を振り返り、実践内容を考える。	1	1 中学生の自分も消費者の1人であることに気付かせ、消費者市民としての意識をもたせる。 2 家族とともに実践できる実践内容を検討させ、実践が継続されやすいようにする。	【関心・意欲・態度】イ (行動観察、ワークシート) 【工夫・創造】イ (ワークシート)

5 指導の視点

- (1) 既習の学習内容や個別の知識を基に、思考・判断することができたか。
- (2) 多面的な視点を育てる手立ては有効だったか。

6 本時の指導（3/4）

- (1) 本時の学習目標：循環型社会の実現について考える。
- (2) 本時の評価規準：既習の学習事項を基に循環型社会の実現のための課題に気付き、その解決方法を実際の消費行動と関連付けて考えている。 【工夫・創造】
- (3) 本時の指導過程

《ALの視点》 主：主体的な学び 対：対話的な学び 深：深い学び

学習活動の流れと生徒の思考	形態	AL	教師の支援と手立て	評価と方法
1 前時の授業を振り返る。	斉		○前時の学習を振り返る。	
本時のめあて：循環型社会はつくれるのだろうか。				
2 どうすれば循環型社会が実現するのか考える。  ① ファストファッションを取り上げた実践的な応用問題に取り組む。  <賛成意見> ・不要になったらリサイクルやリユースすればよい。 ・大切に使用すればよい。 ・安くても良い品ならよい。 ・生産しているのに使わないのはもったいない。 <反対意見> ・回収後、利用されるかどうか分からない。 ・我慢も大切。 ・環境によくない。 ・衣服のリサイクル率は低い。	個 ↓ 班 ↓ 斉	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">対</span>	○実践的な応用問題に取り組みせることで、既習の学習内容や個別の知識と実践をつなげさせる。 ○リサイクルやリユースをすればよいという消費者の安易な考えに気付かせる。 ○付箋を使いながら班での対話的な活動を行う。あえて反対か賛成かを伝え合うことで、お互いの意見を比較検討しやすくする。 ○ゆさぶるための視点を投げ掛ける。 ・衣服の95%は安い製品を輸入。 ・リサイクルに掛かる費用以外に回収のための費用が必要。 ・アジアやアフリカに送っても、活用されてない物も多い。 ・衣服をリサイクルすると、綿花を生産するときの農薬と水は不要。 ○「安価な商品は買ったらいけないのか」など、消費者の本音を引き出す。	既習の学習事項を基に循環型社会の実現のための課題に気付き、その解決方法を実際の消費行動と関連付けて考えている。【工夫・創造ア】（行動観察、ワークシート）
② 「物の一生」を考える。	斉		○具体的に「物の一生」を考えることで、4Rと実際の生活をつなげさせる。	

<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>●リサイクルやリユースすればよいというのは安易な考えであることに気づき、4Rと実際の消費生活を具体的に関連付けて考える。</p> <p>☆リサイクル・リユースすればよいという考えだけでは解決しない。</p> <p>☆必要な物を最後まで使い切って、できるだけごみを出さないようにすることが大切。</p>	<p>個 ↓ 斉</p>	<p>深</p>	<p>○その時々で、どのような行動をとるべきかを考えさせる。</p>	
<p>4 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>斉</p>		<p>○「Tシャツの自動販売機」や「我が家の長く大事に使っている物の集計結果」について触れ、次時への意欲を高める。</p>	